

# 市民文芸

## 短歌

阿南市文化祭秋季短歌誌上大会 選

- 入選 夕食後散歩帰りの我が家には赤き蠍座乗りて候ふ 森 ゆき子
- 入選 風に散る煙のように雲の飛ぶ直立不動に見ておりしばし 土谷 公代
- 入選 外出着そごうで買ってさっそうと頑張りましたご褒美として 青木 弘子
- 入選 青春の別れの中に仄かなる愛などありて未完のまゝに 吉永賀代子
- 入選 頭、羽根バラバラに乾ききり魂は何処へ 八月の蟬 宮崎喜美子
- 入選 三日月はひとときわ光る星つれて刈田の道は物語りめく 井上 正恵
- 入選 米作り八十八の手間なりと先人よりの言葉は沁みる 高尾 久枝
- 入選 梅雨晴間コロナ終息願い込め夜空に咲かず阿波の花火師 松江 敬子
- 入選 雲の形犬から虎にかわりゆき大きな台風現実となる 長尾 久子
- 入選 御霊具膳をひとり作るとい息子母の知らない息子がおりぬ 湯浅 節子

## 俳句

阿南市俳句連合会 選

- 古里の若菜買いしとメール来る 繁木 良子
- 初夢や三泊四日の地中海 片山 幸美
- 初日待つ家族七人打揃ひ 平野 貞子
- コロナ禍の箱根駆けゆく感動を 佐野 峯子
- 鳶の輪に入らぬ鴉小春空 中野 郁
- 正月や稚殖え座敷取られたり 竹谷 由美
- 年の瀬を行商と海渡りけり 島 玲子
- どの部屋もいつもの場所へ新曆 鈴木 順子
- 七草粥子は数え歌競いつつ 芳田 悦子
- 霜囲ひされたる黄花亜麻の咲く 宮崎三千代

## 川柳

阿南川柳会 田上鶴子 選

- マスクして会釈続ける両隣 野口 吾朗
- ハグ出来るほど近いのに逢えぬ人 多田紀久代
- 趣味も旅行もコロナに取られ畑仕事 佐藤つたえ
- 取れそうなボタン夫婦で五十年 原 公美子
- 小窓より生きているかと覗く月 西田 修身
- 整髪へ鏡と話し長くなる 高木 旬笑
- しがらみに解き放たれてわが時間 田上 鶴子
- 一般応募
- 平和です犬も服着て椅子で寝る 島尾美津子
- シルバーカーと杖が彼氏という八十路 武田 敏子
- 歩けるへ苦勞しながら励む日々 吉田 當代

## 漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社 選

- 早春即興 荒瀬左知子
- 八句如夢酒杯中 八句夢の如く 酒杯の中
- 感慨三元度惠風 感慨の三元 惠風度る
- 浮世滄桑身尙健 浮世滄桑 身は尙お健なり
- 吟朋無恙氣蓬蓬 吟朋恙無く 氣は蓬蓬
- ※八句一十年 三元一元日
- ※滄桑一世の中がはげしく変化すること
- 春遍路 大野シゲ子
- 鶯語迎人細雨中 鶯語人を迎う 細雨の中
- 山腰古刹曲蹊通 山腰の古刹 曲蹊通ず
- 六根清浄春風笠 六根清浄 春風の笠
- 南北東西慕遠公 南北東西 遠公を慕う
- ※古刹一古寺 遠公一弘法大師
- 土柱 松原 伸夫
- 崖若屏風連壁迤 崖は屏風の若く 壁を連ねて迤
- 土如天柱聳身鬼 土は天柱の如く 身を聳てて鬼し
- 誰云鬼斧神工極 誰か云う 鬼斧神工の極み
- 奇勝鳴門是孰魁 奇勝鳴門 是孰か魁なると
- ※鬼斧神工一鬼神の妙工 ※奇勝一すばらしい景勝
- ※魁一第一の者



【菜の花】  
時期は11月～4月。(需要期はひな祭り)本年のJAアグリあなんでは80tを出荷予定です。軽量で栽培しやすく、生産者は女性や高齢者が中心。高品質でつぼみのそろった束出荷で、おいしさと春の彩りを届けています。